

夜回り

山田先生

西陵商ラグビー部元監督



19



▼山田耕二(やまだこうじ) 名古屋市中央区生まれの73歳。元ラグビー日本代表。西陵商(現西陵)監督として1997年、全国高校大会で愛知県勢初優勝に導く。豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県豊田市で老人ホームの理事長を務める。

実った努力 控えの小川が最後の最後に大仕事

レフェリーのホイッスルが鳴り響き、いよいよ決勝が幕を開けた。相手は大阪・啓光学園(現常翔啓光学園)。

優勝経験もある強豪だ。西陵商では始業式を早朝に簡単に済ませ、バス17台で教職員、生徒、保護者ら700人の大応援団が名古屋から駆けつけてくれた。私はスタンドから一緒に試合を見守った。

園に先制トライを取られた。追いついては追い越されを繰り返し、リードするチームが7度も入れ替わるという、高校ラグビー史に残る激戦を繰り広げた。

後半30分が過ぎ、ロスタイムに入ってからスコアは19-25。次のワンプレーで試合終了だ。

敵陣ゴールポストの目の前で密集戦のモールが組まれる。大チャンス。スタンドの大応援団は逆転を信じ、総立ちになった。

モールからボールを拾い上げたスクラムハーフの後藤和彦は、交代出場したばかりの背番号21、ウイングの小川恵にパス。相手タックルをひらりとかわした小川が、ゴールポストの真横に飛び込みトライ。24-25と1点差に迫った。ゴールが決まれば逆転だ。スタンドは優勝が決まったかのような熱気に包まれた。

小川は、花園でプレーするのはこの日が初めてだった。控えではあったが、本当に真面目にこつこつと頑張る選手だった。全体練習を終えた後、自主練習でも、いつも最後まで残っていた。なかなかレギュラー入りできずに悩んでいたが、最後の最後に、大舞台で努力が実った。チームを優勝に導く大仕事をやってくれた。

西陵商-啓光学園 ゴール寸前のラックから西陵商の小川(中央下)がゴールポスト左ヘトライ。この後ゴールキックも決まり1点差で逆転優勝する。1997年1月7日、花園ラグビー場で

逆転また逆転...入れ替わり7度の大激戦

開始1分、いきなり啓光学園

園に先制トライを取られた。

追いついては追い越されを繰り返し、リードするチームが7度も入れ替わるという、高校ラグビー史に残る激戦を繰り広げた。

後半30分が過ぎ、ロスタイムに入ってからスコアは19-25。次のワンプレーで試合終了だ。

敵陣ゴールポストの目の前で密集戦のモールが組まれる。大チャンス。スタンドの大応援団は逆転を信じ、総立ちになった。

モールからボールを拾い上げたスクラムハーフの後藤和彦は、交代出場したばかりの背番号21、ウイングの小川恵にパス。相手タックルをひらりとかわした小川が、ゴールポストの真横に飛び込みトライ。24-25と1点差に迫った。ゴールが決まれば逆転だ。スタンドは優勝が決まったかのような熱気に包まれた。

小川は、花園でプレーするのはこの日が初めてだった。控えではあったが、本当に真面目にこつこつと頑張る選手だった。全体練習を終えた後、自主練習でも、いつも最後まで残っていた。なかなかレギュラー入りできずに悩んでいたが、最後の最後に、大舞台で努力が実った。チームを優勝に導く大仕事をやってくれた。

西陵商-啓光学園 ゴール寸前のラックから西陵商の小川(中央下)がゴールポスト左ヘトライ。この後ゴールキックも決まり1点差で逆転優勝する。1997年1月7日、花園ラグビー場で

